

はちのへ横丁ダンジョン

八戸中心街 横丁たんけんMAP

ゆうしゃ よ

はちのへ の 横丁ダンジョン に ひそむ 魔物 を たおし、とらわれ の よっぱらい ほやじ を たすけ だすのじゃ。

MISSION 8つの横丁 をせいはいは せよ

▶ みろく横丁

ためき小路

花小路

五番街

ロー丁れんさ街

ハーモニカ横町

長横町れんさ街

八戸昭和通り

「ほんず」とは 八戸で飲むときに一番大切なもの。 正気。正体。ほんずを落とすと 横丁の魔物に魂を持って行かれる。

はちのへ横丁ダンジョンとは

ダンジョン とは 地下迷宮 のような ばしょの こと。 はちのへ の 街は 酒場や やどやが ひしめき あって まるで ゲームの 世界の ダンジョンの ような 街なのだ。 あなたは ぶじ ほんずを おとさずに 生還 することが できるかな？

つくった ひと

主催：東北新幹線八戸開業 20 周年記念関連事業実行委員会

監修：八戸横丁連合協議会 お問い合わせ：VISIT はちのへ (☎0178-70-1110)

ゆうしゃ

気力：500

体力：255

ほんず：255

そうび

愛情：500

現金：255

カード：1000

隠し球：？

なまえ

新幹線八戸開業 20周年記念

アイコン

- 横丁店舗
- 通路
- 通り抜けビル
- 抜け道
- ビル・たてもの
- ホテル
- 平地駐車場
- 立体駐車場
- 公園・ひろば
- 袋小路
- 旧映画館跡
- コンビニ
- 一方通行

八戸駅からのアクセス

八戸駅

START

本八戸駅 8分 徒歩12分

バス 約25分

車 約12分

課金 しますか？ はい いいえ

偉人 ゆかりの碑

- 川端康成の妻
- 安藤昌益 思想発祥の地 (医師・思想家)
- 原信子 (声楽家)
- 前原寅吉 (天文研究家)
- 三浦哲郎 (小説家)
- 北村小松 (劇作家・小説家)
- 羽仁もと子 (日本初の女性ジャーナリスト)

八戸は とても たくさんの 偉人を 輩出した 地。功績を 讀えた碑が あちこちに あるぞ。 ぜひ 探して みると いい。

さらに探検 VISITはちのへ 横丁紹介ページ

八戸 横丁連合協議会

はちのへの まちは ビルと ビルが つながっていたり、抜け道が あったり、 まるで ダンジョンの ように なっているの。

横丁を めぐる ルートは 星の数ほど。 ふじに 8体の よっぱらいほやじを 探せる かしら？

八戸横丁の れきし

古くから港町として栄えた八戸周辺には、漁から戻った海の男たちをもてなす色街や飲食店が発達し、明治時代には「東北の上海」と呼ばれたほど。現在の中心街は、もともと鬱蒼とした木々の生い茂る屋敷町であったが、昭和21年、引揚者のためのマーケット「ロー丁銀座街」が開設され、時を同じくして、長横町の中ほどに「八戸銀座劇場（後の日活）」が、昭和24年に駐留米兵をターゲットとしたローラースケート場「日米会館」が建設された。その後昭和30年までの間に、この3つの施設を結ぶように数多くの映画館が続々と開館し、それと呼応するように、その周囲に飲食店街が誕生。これが今日の中心飲食街形成の礎となった。平成14年（2002）、東北新幹線八戸開業に伴い「みろく横丁」が誕生。全国的に話題となり、以来、八戸中心街の8つの横丁が、市の観光資源として脚光を浴びてきた。その昔から街の活性化を重視し、回遊性を高めた路地や建物は、人々が活き活きとめぐる、中心街の大切な動脈となっている。

#よっぱらい ほやじ

横丁の あちこちで 飲んでいる よっぱらい と ほやの 妖精。 さもちよく 飲んでいたら ほんずを 落として 魔王に つかまって しまった。

中心街には そのむかし たくさんの 映画館が あり それらを 囲むように 飲食街が できたのじゃ。

八戸の 中心街は 一方通行が おおい。 気をつけて 進まないで わたしの 姿が 見えて しまうかも？

よっぱらいほやじ は わたしの 手で 8体とも 横丁の どこかに かくして ある。 ほやじが 落とした ほんずを 手にいれ 彼らに 手わたす ことが できるかな？

① みろく横丁



江戸入門、まずはココから！

新幹線八戸開業に伴って生まれた比較的小規模な横丁。横丁全域をバリフリー化するなど、日本初の環境対応型横丁であることが話題となり、今でも全国から、沢山の観光客や視察団が訪れる。

三日町と六日町にまたがる立地から「みろく」横丁と命名。三日町側「おんで市」と六日町側「やあんせ市」から成り、併せて26もの屋台が賑々しく軒を連ねる。郷土料理、活イカ、ラーメン、串焼き、馬肉料理、ラインナップは横丁随一で、3年ごとに場所も含め一部入れ替えが行われるため、元気な若いスタンプも多い。観光客にも地元民にも人気の、一見さん大歓迎のストリート。まずはここで横丁マイナンドを装備しよう。

③ ローレンさ街



ちょっと一杯、気軽に寄れる

飲食店のネオンきらめく鷹匠小路。江戸時代は屋敷街であり、牢屋があったことに由来して「ローレン（ローレン）」とも呼ばれる。

この目抜き通りに面し、長横町方面へと繋がるのがローレンさ街だ。長横町れんさ街の成立から少し遅れて、やはり連鎖的に発達してきた。

道の片側に店が並び横丁は人通りが多く、明るく開放的。店の内から外から、陽気なお喋りの声が絶え間なく聞こえてくる。横丁が初めてでも気軽に暖簾をくぐれる、そんな親しみやすさが嬉しい。その先へと続くディープなダンジョンの入口として、まずは立ち寄ってみようというエリアである。

⑤ たぬき小路



昭和がそのまま残る最も古い横丁

昭和21年（1946年）に長横町中ほどに開館した映画館と、マーケット「ローレン（ローレン）」銀座街を結んで、戦後最も早く飲食店が軒を連ねたのがこの通り。北海道一の歓楽街「狸小路」を指し、「たぬき小路」と呼ばれるようになったとか。

ローレンから覗き込むと、一見行き止まりの路地。実はその向こうは五番街と繋がっていて、長横町へ抜けられる。昭和40年代には釣り堀もあったとか。

両側に所狭しと迫り来る看板や建物は、まさに八戸ダンジョンの醍醐味が体感できる。知る人ぞ知る名店に出会える、とっておきのおもちゃ箱のような路地だ。

⑦ ハーモニカ横町



今日はどの音を吹こうかな...

どこからか、懐かしい歌が聞こえてきそう...。元々はやきとり横丁と呼ばれていた横町は、昭和45年頃に櫛館11番街となり、以来正式にはそう呼ばれてきたようだ。現在の愉快な名前の由来は、映画館やパチンコ店、スマートボールなどの娯楽施設の隣に、ハーモニカのリード（吹吸口）のように飲食店が並んだところから。

岩泉町側から小さな階段を上ってアーチをくぐると、思わず「ただいま」と呟きたくなる、懐かしいムードが漂う。路地の片側に集まった小体な居酒屋、若者に人気のアジアン酒場。意外なセッションで驚かせてくれるのも、横丁ダンジョンならではの魅力である。

② 花小路



自在に横丁クルージング

中心街の表通り、三日町にビルが建ち並んだために、防災上の空閑地が必要となり、再開発構想が出てきたことが誕生のきっかけ。昭和62年に、「花の咲き誇る小路であるように」という願いをこめて「花小路」と命名。

通りの名を冠した「花小路ビル」をはじめ、四方にビルを抱えた通りで、ヤグラ横丁から味ビル、マチニワから六日町、みろく横丁まで、繋がっている。ヨコだけだけでなくタテにも楽しめる、八戸ダンジョンの中核をなす横丁だ。ビルの隙間には懐かしい市場も出現。ブックセンターとも繋がるこの小路は令和2年にリニューアルされ、昭和と令和が交わるニューエイジアエリアとなった。

④ 長横町れんさ街



横丁の王道は十軒十色

映画館脇の横丁に、まるで鎖が繋がるように飲食店が並んだことに由来する長横町れんさ街。

さらに昔は、藩政時代には家老の屋敷があり、戦後は仕立屋、呉服屋などが集まる商店街だった。

横丁がU字型になっている長横町れんさ街は、ローレンさ街に続いている。迷路のようなその佇まいは、まさに横丁の王道である。もつきり屋、エスニック居酒屋、バー、インドカレー...と、個性的な店がずらりと並び、新店も続々とオープンしている。

老若男女、国籍たつて飛び越えて、客層も楽しみ方も十軒十色の多彩なダンジョンである。

⑥ 五番街



横丁のミステリアスな深遠へようこそ

ローレン側から入ると、たぬき小路を抜け、かつては長横町の映画館前へと繋がっており（現在は閉館）、そこで上映されたアメリカ映画「五番街の出来事」にちなんでこの名が付けられた。

建物どうしが触れ合いそうな細い路地に入ると、隙間から夜空がわずかにのぞく。まるで洞窟に迷い込んだよう...。煌々と灯るネオンと、所々に覗く細い階段は、冒険者の好奇心を大いにかきたてる。秘密めいた大人のムードは、ディープなダンジョン探検にうってつけだ。勇気を出して、奥の扉を叩いてみてはいかがだろうか。そこには秘密の財宝が眠っているかも知れない。

⑧ 八戸昭和通り



昭和のぬくもりを求めて

長横町の中程から櫛館駐車場に向かって伸びる、比較的幅の広い横丁。古くから親しまれてきたが、新幹線八戸開業にあたり、「昭和時代の温もりを感じられる通りに」との願いを込め、「八戸昭和通り」と命名。その名の通り、昭和の頃から開業する店も未だ健在。加えて近年、新たな店も多数オープンし、懐かしい雰囲気を残しながらも、若者にも人気のエリアとなっているのだ。

実は、広めの通りの突き当たり、櫛館駐車場を通ると岩泉町に抜けられることができる、隠れた回遊路でもある。

ちなみにこの場所、「街ネコ」たちにとっても居心地がいらいしく、時折その可愛らしい姿を見ることが出来る。

写真提供：VISIT はちのへ 瀬知素子